

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	学校企画課長 高橋 泰幸	電話番号	0852-22-5408
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	中学校クラスサポート事業		
目的	(1) 対象	大規模中学校1年生（第1学年の学級数が3学級以上かつ1学級の生徒数が31人以上の学校）	
	(2) 意図	環境が大きく変化する中学校第1学年での生活・学習面をきめ細かく支援し、中学校1年生が充実した学校生活を送れるようにする。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 対象校の第1学年を対象に、生徒一人一人に対する学習指導と生活指導充実のための支援体制を構築するため非常勤講師（CST）を配置する。 上記の非常勤講師配置により、中学校における不登校や問題行動の減少を図る。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	非常勤講師(CST)1人あたりの平均不登校生徒数	目標値	1.2	1.0	0.8	0.6	人
	式・定義	CST配置校の不登校生徒総数を配置人数で除した数値	取組目標値					
	実績値	1.4						
2	指標名	非常勤講師(CST)1人あたりの平均いじめ件数	目標値	1.6	1.4	1.2	1.0	件
	式・定義	CST配置校のいじめ件数(総数)を配置人数で除した数値	取組目標値					
	実績値	1.8						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	84,213	88,375
うち一般財源 (千円)	56,598	88,375

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

・生徒指導上の問題を多く抱えがちな大規模中学校の中から15校を指定し、対象校2学級あたり1名の非常勤講師を配置した（計36名）。
 ・本事業により配置校における第1学年の不登校生徒数は年々減少している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・非常勤講師が学級担任等に生徒の様々な情報を提供することで、学級担任による生徒の実態把握を効果的に行うことができた。特に、生徒に対する肯定的な評価を増やすことで、教職員と生徒の良好な人間関係の醸成につながった。
 ・休憩時間や給食時間前後、昼休み時間等において、非常勤講師が生徒の様子を観察し、必要に応じて直接指導したり、関係教員との連携を迅速に行ったりすることで、問題の早期発見・早期解決を図ることができた。
 ・非常勤講師は教員とは異なる立場にあるため、生徒が気軽に相談したり悩みを打ち明けたりすることにより、問題行動等を未然に防ぐことにもつながった。
 ・上記の取組により、配置校における第1学年の不登校生徒数は年々減少傾向にあり、本事業の成果が認められた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・クラスサポート事業の趣旨を全教職員に周知し、より効果的な非常勤講師活用の体制を構築する必要がある。
 - ・放課後を中心に実施している学年部会（情報交換会）等へ非常勤講師の参加が困難なため、情報共有の方法を工夫する必要がある。学校現場では、支援を要する生徒と良好な人間関係を築いている非常勤講師も多く、生徒指導に関わる効果的な情報交換の手段・方法が求められている。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・本事業の効果的な実施に向けて、校内指導体制や実施計画等が全教職員に周知徹底されていないこともあり、教職員の指導・支援する方向性が整っていない。
 - ・担当教員（一年部教員、生徒指導主事等）と非常勤講師との間で、組織的に情報交換をする校内体制が十分に整備されていない学校もある。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・中学1年生への指導に関わる校内体制を見直し、効果的な情報交換（非常勤講師との情報交換を含む）と組織的な指導体制を構築することが主たる課題である。
 - ・第2学年進級時に生徒が学校生活にスムーズに移行できるよう、第1学年の後半は自立した学習・生活に向けた指導・支援方法に取り組みでいくことも課題の1つである。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・各中学校の実態や状況を十分に把握した上で、支援を必要とする中学校に配置できるよう要件についての検討を行うことにより、一層効果的な非常勤講師配置を行う。
 ・学校訪問指導等で、校内指導体制の構築と計画的な事業推進について各中学校を指導する。
 ・上記の取組に向けて、学校企画課及び教育指導課で一層の情報共有を図り、円滑に事業を運営する。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）